



【2017-11-22】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『しがらみと、どう折り合い
をつける?』

長野修二

しがらみとどう折り合いをつける？

世の中、しがらみがない社会はないでしょう。

もちろん、自分が世間と離れて人との交流を一切絶ってひとりで自給自足の生活でもしていれば別ですが、ほとんどの人は、なにかしらの「しがらみ」を抱えて生きているものです。

私は元来徒党を組むのが苦手なタイプですので、ひとりでいろいろなことをしてきました。

この傾向は、幼いころからもっていた特徴かも知れません。

友達とまったく遊ばないわけではありませんが、多くの友達は、遊ぶ前に勉強してからなどといって、遊びはじめるタイミングが合わなかったことから、自分ひとりで遊ぶことを覚えたような気がします。

昔のこととて定かではありませんが、ひとり、あるいは遊ぶタイミングや遊びそのものが合うタイプの人間と二人で遊んでいたような気がします。

随分と無謀なこともやったような記憶がありますが、やはりそんな遊び友達も少し変わっていたように思えます。

もっとも、私も遊び友達も勉強をしていなかったことは言うまでもありません。

学校の先生は、まったく勉強ができない私など期待もされず「しがらみ」そのものがありませんでした。

声をかけられるわけでもなく、いたずらしたときに廊下に立たされるか、あるいはひっぱたかれるかのどちらかの付き合い程度だったように記憶します。

成績が良くないと、先生からの期待もなく、そもそも「しがらみ」は発生しません。

このような生活は小学校、中学校の途中まで続いたでしょうか。

友人のアドバイスで勉強をはじめて成績が一挙に上昇した途端、先生との「しがらみ」が発生しました。

先生が進学の期待をすることで、これまでとはまったく違った態度になったことでしょうか。

先生から妙にまつわりつかれながら、勉強している自分がいました。

大体、「しがらみ」は良い場合も悪い場合もついてまわるような気がします。

良い場合は、期待の表れであったりすることが多いのでしょうか。
あるいは、自分が期待することによって「しがらみ」を作ってしまう。
悪い場合、仲間を増やすことで一定の安定を保ったり、あるいは、
自らの寂しさを紛らわすなどといったことから「しがらみ」ができる
のかもわかりません。
いずれにしてもなんらかの形で「しがらみ」はあるものです。

それをどのように絶つかは、案外むずかしいものなのでしょうか。
意外と多くの人達が「しがらみ」にまみれている状況ではないか、と
想像されます。
企業に入社すれば、同期や先輩、あるいは上司との「しがらみ」は否
応なくできてしまうでしょう。
良いしがらみも、悪いしがらみもごっちゃになって混沌とした状態
でしょうか。

私はもともと就社という考えがなく、就職ということで生きてきまし
た。
ひとつの企業でやるこをやったら、次の会社へいけばよいと考えてい
ます。
もちろん、「しがらみ」はなくとも、相応な苦勞が発生することにな
ります。
しかし、人的なしがらみは、いとも簡単に切れてしまいます。
このようにして人的なしがらみは、克服してきました。
というよりは、人よりあくまで自分の仕事を中心に生きてきただけな
のです。
それゆへ今日しがらみによる生活の制約はほとんどなにもありません。
適度な距離をもって付き合う人間はほんのわずかにいますが、濃密な
人間関係をもっている人は皆無でしょうか。
あくまで自分中心に生きているだけです。
それは子供のころの自由で気ままな生活そのものでしょうか。
だからこそ、子供時代同様、ひとりで田んぼを歩くことが好きなの
です。

それでも企業の中で仕事をすれば、ある程度付き合いはしますが、ほ

とんど無駄だと思いますが、無駄の効用と考え、また企業というところは、やはりチームワークが必要になりますので、その際の人間的な側面を知っておくために付き合っているように思えます。

さらに、良いしがらみができる人達との会話は、自らの発想を豊かにしてくれるのは間違いないと、確信しています。

目標に向かって人間的にも尊敬できるような人であれば、付き合い＝しがらみでも人間生き生きとしてきます。

会社生活の中で多くはありませんが、わくわく感を味わえる感動的なひとときになっていました。

しかし、それでも転職すれば前の会社の人たちと付き合うことはありません。

あくまで仕事上の人間的な付き合いということになります。

「人というしがらみ」から逃れるのは、ひとりで行動を起こす以外にありません。

ただし、転職してもまた次のしがみが襲ってきますから、現在のしがらみに妥協できるかどうか、自分がやりたい仕事かどうか、最終的に自分ひとりで考え、決断し、実行するしかありません。

また、その結果も自らが取るという覚悟が必要です。

良いしがらみは、結局のところ、自分の心のなかに長く続いていくものではないでしょうか。

それは今でも続く心のよりどころのようなものかも知れません。

その意味では、よい「しがらみ」から逃れることは永久にできないでしょう。

心に残るよいしがらみと出会えるかどうか大切なことではないでしょうか。

